

平成27年度廃棄物資源循環学会関東支部講演会・研究発表会 開催報告

関東支部では平成28年3月4日（金）に明星大学日野校にて講演会・研究発表会を開催いたしました。本講演会および発表会は、支部会員同士の交流ならびに学生や若手研究者の研究発表の場を提供することを目的として毎年開催しており、今回は3回目となります。

第1部では講演会が行われ、はじめに首都大学東京の吉葉教授より「廃棄物・バイオマス発電の効率化・高機能化の新潮流 -その有益性と課題」と題してご講演いただきました。続いて、関東支部に所属する大学および研究機関、さらに民間企業から各研究活動紹介が行われました。講演会には60名を越える方のご参加を頂きました。

第2部では研究発表会として学生や若手研究者によるポスター発表を、その後の第3部では意見交換会を行いました。

<講演会>

吉葉先生は、はじめに環境政策、廃棄物行政等とエネルギー利活用の関係の変遷について述べられ、施策によって変わるごみ質の比較や発電効率が年々向上していること等をご説明されました。その後、高効率廃棄物発電の課題である材質の腐食に関する知見及び今後の課題について解説されました。ソフト面の課題としては、政治・行政には組織改編等に伴う技術継承、企業・自治体にはリスク回避的思考、国民には廃棄物に対する保守的潜在意識を資源活用に発想転換する必要性、があることをご説明いただき、それらを受けて廃棄物・バイオマス発電の将来展望として、廃棄物減量化、地域に応じた合理的運用、省庁の縦割りにより実現しにくい固相系と液相系の技術等の統合化、防災拠点化等があることを解説いただきました。そして最後に廃棄物・バイオマスマネジメントに関する総括と将来展望に関してお話いただきました。講演後は、発電効率向上のための方法等について質疑応答が行われました。



吉葉教授による講演



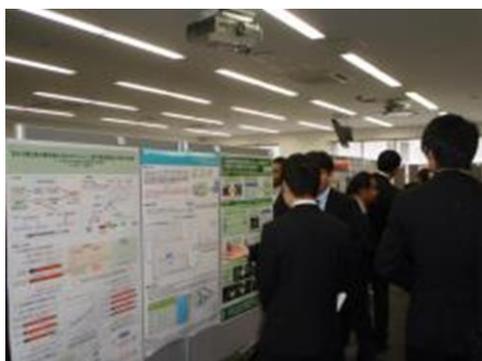
講演会会場の様子

次に研究活動紹介として、公益財団法人東京都環境公社東京都環境科学研究所、一般財団法人日本環境衛生センターの活動及び日立造船株式会社から日頃の研究活動等の様子について発表が行われました。

<研究発表会>

講演会后、ポスター研究発表を催しました。学生発表21件、社会人発表8件、計29件の研究発表がなされました。研究発表は1部45分の2部構成としたため、発表者も他ポスターを見にゆくことができ、活発な議論を交わしている様子が見られました。研究発表会会場には企業展示ブースを設け、9件の企業・団体の出展をいただきました。

その後の意見交換会には多くの方に参加していただき、交流を深められたものと感じました。最後に支部長より、5名の発表者にポスター優秀賞の賞状が授与されました。



ポスター発表会場の様子



ポスター優秀賞 受賞者

おわりに

今回の講演会および研究発表会においては、大学や研究所等の研究機関だけでなく、民間企業や関係団体など、幅広い分野の参加者を得ることができました。都心からは少々距離がある会場でしたが、多数の方にご参加いただき、交流及び研鑽の場として非常に有意義な場になったと感じました。企業展示では多くの企業・団体様からご協力を頂き、誠に感謝申し上げます。研究発表会のポスター発表は2部構成で発表者を入れ替えたので、発表者間でも様々な意見交換が図られたものと考えています。また、意見交換会では研究発表の場よりさらに深い議論が交わされ、相互に理解を深める非常に良い場になったと感じました。運営上の課題としては、ネームプレート等により、参加者の所属、名前がわかるようにしたほうがよいこと、学生と企業のポスターが一目で区別できるようにすること等が挙げられました。最後に研究発表会および講演会の開催にご尽力いただいた明星大学の宮脇教授及び学生の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

関東支部支部長 大迫政浩

関東支部運営委員 落合知、大久保伸、溝田健一、池本久利